

2023年4月26日

2022年度 第三者評価を受けて(語り支える会の立場から)

北星学園大学附属高等学校
教育を語り支える会
事務局長 鶴田恵子

はじめに

3年間つづいたコロナ禍の対応に尽力された教職員に頭を垂れるばかりです。2022年度から、ようやく入学礼拝、研修旅行も道外で行えました。特に開校60周年の記念事業として、コロナ禍において多目的に使用できる人工芝総合グラウンドを、学校法人の北星学園が発案し計画され、財政面でも全面的に支えて整備して下さり、学校祭や体育大会も屋外で実施できました。これは学校行事や課外活動を通して生徒が成長していくという中等教育の在り方を、理事会が良く理解して下さっており、感謝すべき事柄です。コロナ感染症の制限は緩和されつつあり、収束まではまだ見通せないものの、教職員の皆様のご苦勞と努力に何より、逆境にあっても果敢に前を向いて歩む生徒の皆様へ大きな拍手を送りたいと思います。

第三者評価を受けて

1. 本組織は主として北星学園大学附属高校の教育の充実に貢献するために、卒業生の保護者OB、OGキリスト教会関係者、退職教員、近隣住民、施設職員などによって組織されています。この度、第三者評価を受けて、北星学園大学附属高校が大切にしてきた「共育」(生徒も保護者も教職員も、共に育む、育つ)という視点から述べさせていただきます。本組織が行ってきた活動は、コロナ禍にあって残念ながら停滞しております。しかし、ホームページやSNS、機関誌を通して、学校の様子を応援してきました。
2. 特に「ICT教育」は、もはや当たり前の状況にあります。附属高校は、コロナ禍以前に整備をしていたことに先見性があったと思います。附属高校は、早くから「オンライン会議」を提言しておりましたが、これらの取り組みには、学園の理事会や教職員からも抵抗があったことを察します。しかし結果的に間違いではなかったとは評価できると考えます。
3. 私たちの世代はアナログ世代ではありますが、時代の変化を見据えて、学校長をはじめ率先して情報収集を行い、推し進めて欲しいと願います。
4. 新入生を対象とした「アンケート」を通して「本校に期待する点は何か」という調査を行い分析を続けてこられました。広報や教育の中心が、クラブ活動(特に強化指定)に偏っていたところから、附属高校としての大学への接続への期待や、英語教育の強化など多様なものになっています。こうした取り組みが、生徒募集を安定的に維持している要因になっていると思われます。
5. 地域のクリーン活動、フードロス削減のための食品開発、子供食堂の支援、フィリピンの島の学校支援など、コロナ禍で制限がある中、最大限に工夫をしてきたことも地域貢献として評価できます。
6. 英語の少人数展開授業の実施などを通して、英語力の向上に力を入れていることが第三者評価からも分かります。世間は成績の向上のみに注目しますが、校長が方針で打ち出している本来の意図である苦手な生徒への手厚い指導も視野に入れて、より一層の創意工夫を期待したいです。
7. 基本理念である「共育」を大切に、他者や隣人との関りの中で、新しい教育を推進されることを望み引き続き、一歩、二歩、離れた立場から「教育を語り支える会」として、サポートしていきたいと思えます。